

4.21 小節 891 ~ 916

[illegible]

[ビデオ 4.21: 小節 891 ~ 916]

ペーターベンはこのパッセージをものすごい速さで弾くことを要求しています。まずはゆっくり練習してください。スケールの進行のコツが分かったら、オリジナルの速さで弾いてみてください。はじめはひどい音でしようが、テンポ通りに最後の音まで弾いてみてください。あなたの手が動きに慣れ、大まかにパッセージに慣れるためです。それと同時に、ゆっくりでの練習を続け、メトロノームのテンポを一度に1目盛りずつ上げていきます。

461

4 1 4 1 4 1 3 4 1 2 4

(I) III

466

2 1 1 1 3 4 3 4 4 1 3 4 2 3

sf *sf*

476

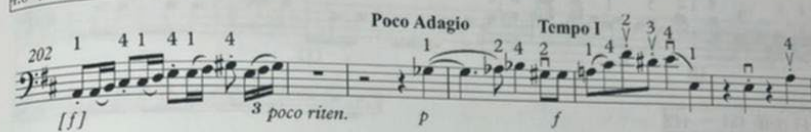
よく時間をかけて練習しましょう。

33

[ビデオ 4.7: 小節 92 ~ 164]

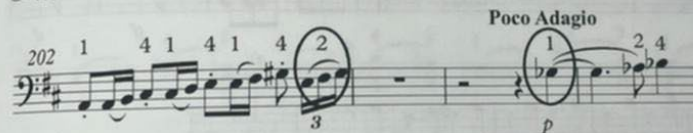
小節 92~164 は、休みなく続く最も長い箇所です。もちろん、ゆっくり練習する時は分割して練習すること
もできますが、フレーズの長さに慣れることも重要です。特に tutti に向かって音が重なっていくところは重
要です。集中力を失わないようにしてください！
繰り返し言いますが、このセクションの演奏方法は指揮者の解釈によります。まるで遠くから聞こえるかのよ
うに、ビブラートの少ない小さな音を求める指揮者もいれば、ビブラートをしっかりかけた暖かなサウンドを
求める指揮者もいます。
このセクションの最初の方に出てくる D 線の開放弦の音は、レガートが目的です。開放弦の音が他の音に
溶け込むように気を付けてください。もし多くのビブラートをかけるように求められた場合、開放弦では難し
いですが、それでもこの運指で弾くことをお勧めします(開放弦の前後の音にビブラートをかけることができ
ます)。

4.8 小節 202 ~ 207



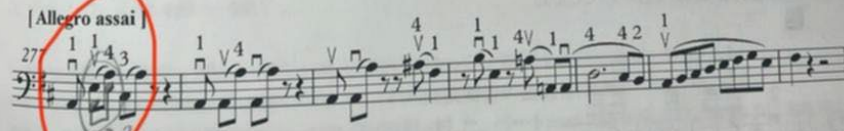
[ビデオ 4.8: 小節 202 ~ 207]

この部分で難しいのは Poco Adagio で Gb の音を見つけることです。



F# (2 の指) をアンカーとして、Gb (1 の指) を見つけます。

4.9 小節 277 ~ 283



[ビデオ 4.9: 小節 277 ~ 283]

この部分の課題は、テンポにあわせてオクターブを正確に弾けるように練習することです。ここでは指を伸
ばし、同時にシフトを行うことをお勧めします。まずはゆっくり練習し、テンポをきっちり守って弾けるようにし
てください。

[Allegro assai]



[Prestissimo] $\text{♩} = 132$

